まちだ作家博覧会

2009年
4/25(土)～7/5(日)

◎観覧時間／10：00～17：00
◎休館日／毎週月曜日、第2木曜日
※ただし5月4日は開館

入場無料

講演会 ※電話による申込み（定員100名）コールセンター／042-724-5656（4月11日 13：00～）

5月17日(日) 14:00～16:00
「私と推理小説」 講師／翔田 寛氏(作家)

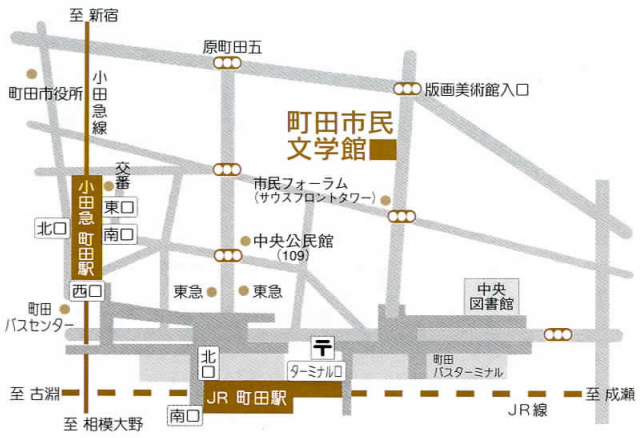
6月14日(日) 14:00～16:00
「沢野ひとしの旅人生 『本の雑誌』からはじまる話」
講師／沢野ひとし氏(画家・作家)

展示解説 ※申込み不要

4月28日、5月26日、6月23日(いずれも火曜日、14:00～)

同時開催

没後20年 田河水泡とのらくろ



■JR横浜線「町田駅」ターミナル口より徒歩8分　■小田急線「町田駅」東口より徒歩12分

町田市民文学館ことばらんど

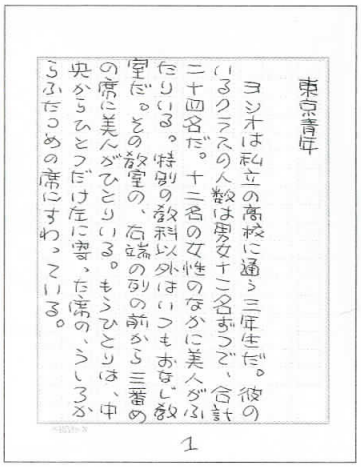
〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目16-17
Tel.042-739-3420 Fax.042-739-3421

現在活躍中の作家がたくさん在住している街、町田。ご存じですか?

本展では、1969（昭和44）年に「高層の死角」によって江戸川乱歩賞を受賞した森村誠一氏から、2008（平成20）年に「誘拐児」により江戸川乱歩賞を受賞した翔田寛氏までの14人の作家をとりあげ、その作品と多彩な活動をご紹介します。主な資料は、本展のためにあらたにご執筆いただいた自筆原稿、草稿、創作ノート、スケッチ、関連書籍などを出品します。また会場内の“スペースふみくら”では、晩年を玉川学園で過ごし、今年が没後20年となる漫画家・田河水泡氏の業績をご紹介します。

作家の生き方や作品を通して文学に触れ、ことばの力と作品の魅力を感じていただければ幸いです。それぞれの時代の話題作や問題作、青春の思い出の一冊、いま夢中になっている作家など、楽しい出会いが待っています。

「まちだ作家博覧会」にようこそ!

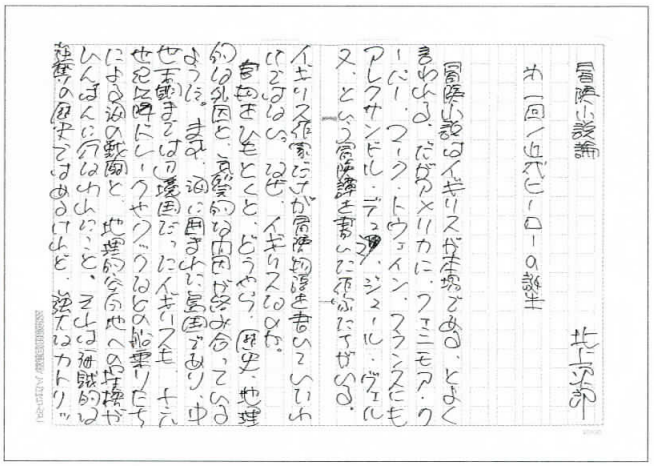

東京青年

ヨシオは私立の高校に通う三年生だ。彼のいるクラスの人数は男女十二名ずつで、合計二十四名だ。十二名の女性のなかに美人がふたりいる。特別の教科以外はいつもおなじ教室だ。その教室の、石端の列の前から三番めの席に美人がひとりいる。もうひとりは、中央からひとつだけ左に寄った席の、うしろからふたつめの席にすわっている。

1

片岡義男「東京青年」原稿

森村誠一
『人間の証明』
角川書店　1976年1月


冒険小説論
―第一回 人びとのヒーローの誕生
北上次郎

冒険小説はイギリスが生んだ。とよくいわれる。だがアメリカに、フェニモア・クーパー、マーク・トウェイン、フランスにもアレクサンドル・デュマ、ジュール・ヴェルヌ、という冒険小説を書いた作家たちがいる。

イギリス作家だけが冒険小説を書いていいはずはない。なぜ、イギリスなのか。

自問自答をしてみると、どうやら、歴史、地理的な要因と、経済的な要因が絡み合っているようだ。まず、海に囲まれた島国であり、中世末期までは辺境国だったにイギリスは、十二世紀以降にしっかりとした海軍力をもち、海の戦闘と、地理的な発見へのやる気がひんぱんに行なわれたこと、また海賊的な商業の歴史をもっていたけれど、逆ならカトリ

北上次郎「冒険小説論」原稿

渡辺有一「ねこざかな」原画

あまんきみこ作・長谷川知子絵
『ひつじぐものむこうに』
文研出版　1978年10月